



あけましておめでとうございます。

昨年秋に里山パートナー講座が始まり、11月28日、12月11日と2回の講座が開かれました。

### ●11月28日（日曜日）

11月28日には、みはらしの里古民家において国営公園の知識や、オオウメガサソウの生育状況の調査方法について学びました。

また、過去に調査されている調査区の中で比較的良好な生育をしている調査区の現場を確認しました。

過去の調査に携わっていた茨城生物の会の安嶋先生、小菅先生に指導して頂きました。



大日方公園事務所長より公園に関する知識を学ぶ



オオウメガサソウ生育地を確認し、調査方法を学ぶ

### ●12月11日（土曜日）午前の部

12月11日は、オオウメガサソウの調査を開始しました。まずは、過去に調査記録があり、比較的良好な調査区2・3について2つの班に分かれて調査を行いました。調査区の大きさは、3m×3mです。

調査内容は、①オオウメガサソウのシュート数、②植生、③相対照度、④林冠開空度、⑤環境の評価です。

調査シートに沿って、皆さん真剣に取り組んでくださいました。

茨城生物の会の中崎先生、藤田先生、海老沢先生、丸山先生が、調査方法、植物の種類等について指導して頂きました。



調査区内のオオウメガサソウの調査

### <調査結果>

#### (1) オオウメガサソウのシュート数

調査区2では381、調査区3では1015のシュート数が確認されました。

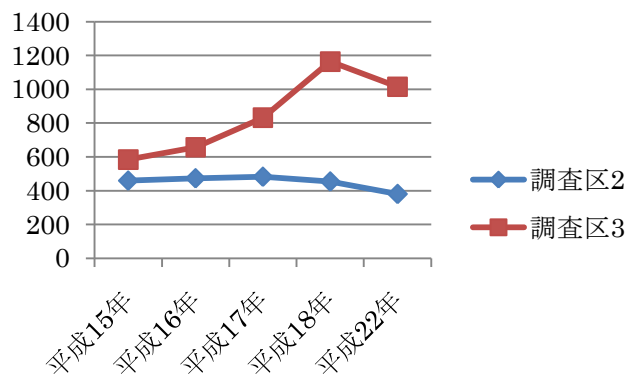
#### 調査区2

#### 調査区3

	平成22年		
	シュート数	結実個体	枯れ個体
1	47	3	
2	92	3	
3	75	1	
4	8	0	
5	29	0	
6	30	0	
7	20	0	
8	46	0	
9	34	0	
計	381	7	0

	平成22年		
	シュート数	結実個体	枯れ個体
1	75	0	2
2	94	0	1
3	107	0	1
4	107	0	
5	100	0	
6	81	0	
7	208	5	
8	108	2	
9	135	2	
計	1015	9	4

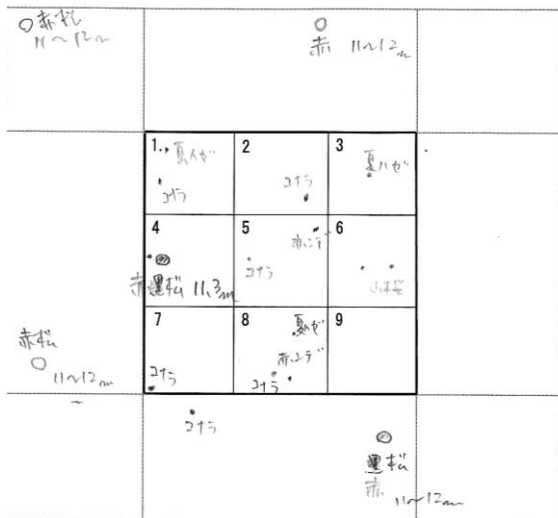
平成15年からの推移をみると、ともにやや減少しているものの大きな変化は見られませんでした。



(2) 植生

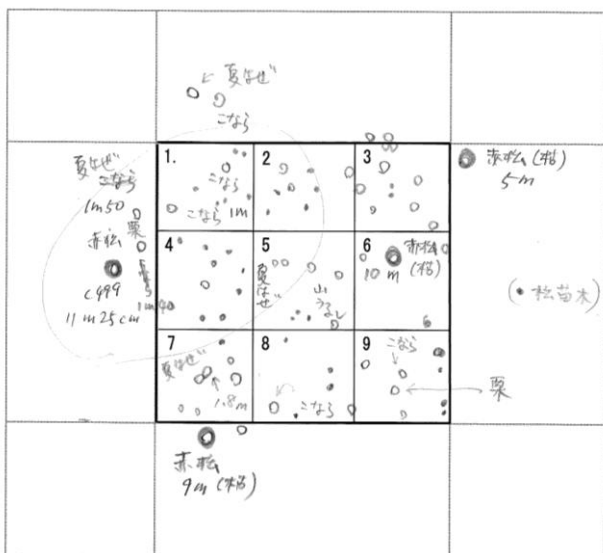
調査区 2・3 ともに高木にアカマツがあり、亜高木層が見られません。調査区 3 の方が、ヤマウルシやナツハゼ等の低木層が多くみられした。調査区 2

	高木層 (8m以上)	亜高木層 (7~8m)	低木層 (1.5m)	草本層 (1m以下)
1				15
2				20
3				20
4	1			10
5			1	15
6				10
7			1	5
8			5	15
9				12
備考	アカマツのみ	なし		



調査区 3

	高木層 (8m以上)	亜高木層 (7~8m)	低木層 (1.5m)	草本層 (1m以下)
1			2	6
2			3	5
3			8	2
4			2	7
5			5	2
6	1		2	
7			6	1
8			2	4
9			5	3
備考	アカマツ(10m) 枯れ木	なし	ヤマウルシ ナツハゼ クリ	コナラ アカマツ(実生)



(3) 相対照度 (%)

相対照度は、さえぎるものがない場所での照度に対する林の中の照度の割合です。林の中の明るさを示します。平成 18 年度の冬に調査した数値と比べると調査区 3 では、変化がありませんが、調査区 2 では大変明るくなっています。

調査区 2

調査区 3

平成18年 (1月)	平成22年 (12月)
21	66

平成18年 (1月)	平成22年 (12月)
56	53

●12月11日(土曜日)午後部 里山管理

午後には、里山管理(伐木や除草等)をするうえでの安全管理の概要を座学で、また記念の森隣接樹林地で生育に支障のある樹木の判断について講習をし、実際に生育支障木を白い紐でマーキングしました。1月16日以降はこのマーキングした樹木で伐木練習をします。

<安全管理概要>

里山管理では、草刈りや樹木の伐採などの草地や樹林地の手入れを行います。場合によっては、刈り払い機やチェーンソーなどを使う場合もあります。

こうした作業を公園という不特定多数が利用する場所で、市民が行うには十分な安全管理が必要です。

今後、公園としてのルールをしっかり作っていきたいと考えています。

(1) 他の公園利用者に対する安全

多くの人利用する公園という性格上、他の人を巻き込む危険性があることを忘れない。入園者が進入してくる可能性のある区域で作業する場合は、入園者に対するインフォメーションを確実にする必要があります。作業は、一般の人の利用が少なく、安全を確保しやすい場所で行います。

作業にあたっては、下記の点を必ず実施します。

- ①公園の他の行事の状況を確認する。
- ②他の公園利用者の利用範囲を確認する。
- ③里山管理作業の内容、作業場所について、管理センター、他の公園利用者に周知する。
- ④作業範囲にロープ等による囲いを設け、立ち入り禁止看板を設置する

(2) 作業者・作業グループの安全

- ①参加者に無理のない作業か確認する。また、無理

な作業を行わない。

- ②安全管理者を配置する。
- ③救護・休憩場所を確保する。(夏は、日よけ地。冬は暖をとれる場所。)
- ④緊急車両を配備する。
- ⑥医薬品、水、救護用品、タンカ等を配置する。大規模な行事では、救護所及び救護員を配置する。
- ⑦受け入れ病院の位置と受け入れ時間を確認する。診療科目も確認する。ササや小枝で傷つきやすい眼だが、眼科の救急病院はほとんど無い。

### (3) その他の講習の内容

その他、次のような内容を学びました。各回の講習で実践しながら身につけていきます。

- ①作業資格と作業範囲
- ②安全管理責任者の役割
- ③事前準備
- ④作業人員配置
- ⑤動力機械の準備と管理
- ⑥作業記録、使用の手続き、届け出
- ⑦適性の自己診断
- ⑧各作業の安全管理
- ⑨傷病者が発生した場合

### <樹林管理講習 1-生育支障木の選定>

樹林を構成する樹木について生育に支障が生じている点についてチェックを行った。チェックポイントは、根もと、幹で、腐朽等の有無を確認した。

林内の半分近くの樹木が何らかの形で支障があった。支障の多くが、伐採時の処理が原因で腐朽が見られるようになっています。

今後、里山管理を行っていくうえで、伐採時の樹木の取り扱いについて適正に行っていく必要があることを痛感しました。



### <オフタイム>

ふかしいもタイム(みはらしの里パートナーから)



次回は、

1月16日(日曜日)

午前10:00~

午後1:00~

古民家前集合

<午前>

●NO.1・NO.4・NO.5 調査区のオオウメガサソウと生育環境の調査

●管理実験用調査区の候補地選定

今回は、生育が思わしくない調査区域の調査となります。どのような状況か、また、生育環境はどのようなになっているのか、見てみます。

持ち物：筆記用具、防寒を念入りに！

<午後>

●樹林管理講習2(伐木の基礎(手工具))

里の家で座学の後に、記念の森周辺樹林で実習(手鋸による小径木の伐り方を学びます。受口、追口づくりや安全管理の練習をします)

持ち物：持っている方は、次のものをお忘れなく！

ゴーグル・ヘルメット・ホイッスル・軍手  
鋸・挟み

ぜひ、ご参加ください。

特に、実際に機械を使った管理、伐木等を行う方は、午後の技術講習を受けてください。

